キャラクター名	プレイヤー名
太鼓鐘貞宗	

ポジション	ジャンク	享年	
メインクラス	タナトス	暗示	物語
サブクラス	ステーシー	寵愛点	0

初期配置	煉獄
最大行動値	12

能力値	クラス	修正	合計
武装	2	1	3
変異	1	0	1
改造	1	1	2

記憶のカケラ	内容
時雨	雨に濡れたら刀は駄目になってしまうらしい。その雫はどんな感触なのだろうかと見つめていた。
小鳥	どこかで鳥の鳴き声がした。その響きで季節の移り変わりを楽しんでいたこともあった。
飲み物	以前にも、こうして飲み物を買ったような気がする。その時にも、自分の隣には大倶利伽羅がいて。「貞は何にするんだ？」そんな風に言って、自分に問いかけてきたような……。
和菓子	以前、和菓子を買って食べた事があるような気がする。確か1個の大福を半分こにして、大倶利伽羅と分け合って食べたはずだ。「半分やる」そんな風に、半分になった大福を差し出されたような……。
殺害	刀を構えた彼に、己の渾身の一撃を叩き込む。…打刀『大倶利伽羅』が折れる。何故、どうして、分からない。ぐちゃぐちゃになった気持ちのまま、彼の亡骸を抱きしめて泣いた。不意に床に落ちたままの彼の刀を見て、思った。せめて形見だけでも、大切に仕舞い込まなくては……。
忘却	「嫌だ嫌だ！！忘れたくない！！！」必死に叫んで、叫んで。それでも押さえつけられ、注射を打たれて…そこから先は曖昧だ。……自分は一体、何を忘れてしまったのだろうか？
繰り返し	大倶利伽羅の亡骸に縋って泣いていた時、男達が現れた。「実験は成功か……しかし、再現性がなくてはな。実験とはそういうものだ」虚ろな目をした刀剣男士らが、自分を床に押さえ付ける。「さあ、次も期待しているよ。ひとまず君は全てを忘れてしまうといい」男が自分に何かを注射し、薄れゆく意識のなか、彼が身に付けているドッグタグを取り外して、黒い箱にしまい込む様子を見た。「形見くらいは残してやろう。俺はこれでも、慈悲深いんでね」

未練				
対象	種類	狂気点		発狂時ペナルティ
たからもの(お守り[極])	依存	3	①②③④⑤	パーツとして所持。破壊で狂気点+1
大倶利伽羅	友情	3	①②③④⑤	
		3	①②③④⑤	
		3	①②③④⑤	
		2	①②③④⑤	
		2	①②③④⑤	

マニューバ							
タイプ	損傷	名前	使用	タイミング	コスト	射程	効果
ポジション		地獄の住人		オート	なし	自身	地獄にいる時、攻撃判定の出目+1
メインクラス		死神		オート	なし	自身	白兵攻撃の出目+1
メインクラス		刹那		オート	なし	自身	攻撃時、自分以外は【ラピッド】【ジャッジ】の使用不可
メインクラス		災禍		ダメージ	2	自身	自分が与えた白兵攻撃に使用可 攻撃の対象が全体攻撃(自分以外)になる
サブクラス		死人の流儀		ジャッジ		0~1	コストとして任意の基本パーツ損傷 支援2か妨害2
頭		のうみそ		オート			2
頭		めだま		オート			1
頭		あご		アクション	2	0	肉弾攻撃 1
頭		カンフー		オート			行動値+1
頭		発勁		ラピッド	0	0	移動1 自身に対しての使用不可
腕		こぶし		アクション	2	0	肉弾攻撃 1
腕		うで		ジャッジ	1	0	支援 1
腕		かた		アクション	4	自身	移動 1
腕		号:太鼓鐘貞宗/名刀		アクション	2	0	白兵攻撃2+切断 攻撃判定の出目+1
腕		鞘		ダメージ	0	0	防御2
腕		お守り【極】		オート			たからもの『本体』に該当するパーツが損傷した後、自動的にこのパーツは損傷し、損傷している所持パーツが全て損傷前の状態に戻る
腕		リフレックス		オート			行動値+1
胴		せぼね		アクション	1	自身	次カウントで使うマニューバ１つのコスト-1
胴		はらわた		オート			
胴		はらわた		オート			
胴		スチールボーン		ダメージ	1	自身	防御1+切断無効
胴		おとこのこ		オート	なし	自身	対話判定において出目+1
脚		ほね		アクション	3	自身	移動 1
脚		ほね		アクション	3	自身	移動 1
脚		あし		ジャッジ	1	0	妨害 1
脚		しっぽ		オート			行動値+1